



ほほえみ 第85号

日付に2017年と記入するのに慣れたかと思うと、もう12月ということで、今年も残すところあとわずかとなりました。一週間が過ぎるのが長いと思いつつ、何とか12月に漕ぎ着けたかと思うと感慨深いものです。12月には、忘年会やクリスマス、大晦日とイベントも多く、そうでなくても忙しい月ですが、皆様も体調管理に気をつけて、良いお年をお迎えください。

六韜（りくとう）

この本は、いわゆる「虎の巻」の語源となったもので、古来、武官が読むべきものとされています（武経七書）。兵法書としては、『孫子』が有名ですが、『六韜』は『三略』と共に、六韜三略として読まれてきました。孫子のようには、あまり目にするの少ない本ですが、極めて現実的な戦略にあふれた書物です。形の上では、太公望呂尚が、文王、武王の諮問に答えている形になっていますが、流石に呂尚本人が書いたものではないと思います。

六韜の韜というのは、武器を入れる袋のことで、文韜・武韜・竜韜・虎韜・豹韜・犬韜と六つに分けられています。虎韜というのが、虎の巻ということですね。細かい戦術も書かれていますが、今回、この本を取り上げようと思ったのは、武韜に文伐（ぶんか）という項があって、敵の国力を武力以外でそぐ方法が書かれているからです。

文王が太公望に質問した。

「武力を行使しないで敵を征服するにはどうしたらよいであろうか」

太公望が答えた。

「おおよそ十二の方法が考えられます。第一には……」

王やその近臣、后妃などの間に不和を起こさせ、重臣、忠臣を離反させたり、主君の方から排除させるように仕向ける策略が書かれています。こういう質問を行う問題認識はいわゆる戦闘とは異なりますが、いきなり戦うのは賢いようには見えないし、現実的に文伐は有効であったらと思います。実際に、論語の中で、斉国が魯国に対して、舞姫80人を送り、それが的中して、魯政権が国政に怠慢になった史実があります。孔子は、あきれて魯を去った故事です。

民主国家からすると、調略という手段が理解しにくいと思いますが、絶対君主国家に対しては、有効な戦略であったと思われます。現代は、王や殿様がいない時代なので、このような知恵があったことは忘れられがちですが、一つの人間学として読んでみるのも良いのかも知れません。

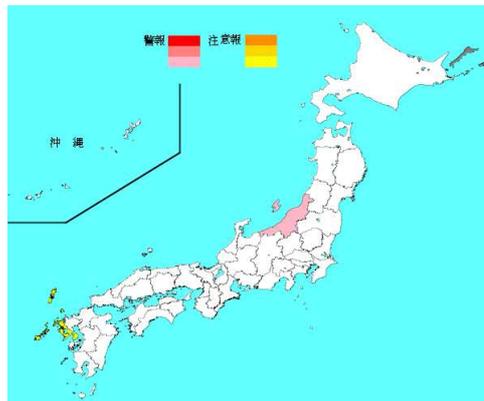
民主国家が専制君主国家、独裁国家と向き合う場合には、自分の思考回路で相手を推し量っていても有効ではないので、歴史をひも解く必要があるでしょう。古来から、力の激突は、できるだけ避けるべきとされてきたのですから。



太公望呂尚（wikipediaより）
今では、釣り人の代名詞となっています。

インフルエンザ情報

2017年の11月22日時点でのインフルエンザ情報になります。右図のように、新潟県で警報が出ていますが、その他の地域では、流行はしていないようです。ただ、例年1月から2月に流行期があるので、これからが対策本番となりますね。ワクチンの質問をお受けすることも多いのですが、骨髄抑制が強い時期の方、感染兆候のあるかたは控えていただいて、それ以外では原則として、可能と考えています。ワクチンは感染を免れるものではなく、重症化リスクを下げる程度に捉えていただいて、人ごみや感染者を避けるなどが不可欠になると考えられます。



雪に耐えて咲く、リパブリック・ド・モンマルトル

春から、切れ目なく咲いてきた赤の真紅のつるバラ、リパブリック・ド・モンマルトルですが、ついに、雪が降るようになっても健気に咲いています。この花は、11月上旬から咲き始め、3週間、萎れることもなく咲いています。寒椿とは言いますが、まさに寒バラとでもいふべきような、力強さです。

12月には、枝の剪定・誘引を済ませ、来春に一層の開花をしてくれるようにお世話をする予定にしています。



MEMO

12月のがん化学療法科の予定

12月5日	診療応援(平出先生)
12月12日	診療応援(工藤先生)
12月19日	診療応援(平出先生)
12月22日	新渡戸稲造記念メディカル・カフェ(予定)
12月23日	天皇誕生日
12月24日	クリスマス・イブ
12月26日	診療応援(工藤先生)
12月31日	大晦日

12月29日から、1月3日の間は休診と致します。

